

# 東京バッハ合唱団 月報

[ 第 582 号 ] 2010 年 12 月号

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101 郵便振替：00190-3-47604  
Tel：03-3290-5731 Fax：03-3290-5732  
mail: bachchortokyo@aol.com http://www2.tky3web.ne.jp/~bach/chor/

BACH-CHOR, TOKYO

Monthly Newsletter No. 582

December 2010

5-17-21-101 Funabashi,  
Setagaya-ku, Tokyo

## 多難な 2010 年を送る

大村 恵美子

人間は過去を学ばず、歴史をくり返す愚かなもの  
これが、今年のをわれわれの大きな感慨ではないだろう  
か。10 年前に 21 世紀を迎え、新たな気持ちで足を踏み  
だそうとしたとたん、9.11 事件に代表されるような、全  
世界的な対立抗争への傾斜がおそってきた。蜂の巣をつ  
ついたように地球各地でテロ騒ぎがおこり、当然の結果  
としての大不況。

新興国参加の国際会議がひんぱんに開かれるよう  
になり、いよいよ人類の叡智が問われてくる。日本国内で  
も、官民そろってモラルハザードが顕在化するこの時  
世、いちどしっかり立ち止まってみよう。家族どうしの、  
隣人・隣国どうしのいがみ合いなど、おとなが子どもに  
まっ先に教える生き方のイロハではないか。精密な機械  
をつくりまくった人類は、もっとも単純かつ根本的な生

きるすべを忘れてしまった。まず、正しく呼吸する。前  
をしっかりと見つめる。他者とのスペース設定を感じと  
る。そしてお互いのいのちを自分とあわせて、生活圏を  
整える。相手の反応をたしかめ、そこに調和を生じさせ  
てくれる大きな存在の意志に、こぞって感謝する。

ハードなものに身を固める方向を、ソフトにソフトに  
切り替えてゆく。2011 年からは、そういう人類をめざし  
てゆきたい。

われわれ、バッハ合唱団の目標は、どんな時代でも自  
明であり、揺れ動かない。現実的に困難の重なり合った  
1 年だったが、とにかく持ちこたえて、ひきつづく大き  
な計画をかかえて新年を迎えようとしている。早々、1  
月 9 日に、定期演奏会を敢行する私たちに、幸運の春が  
訪れることを。(東京バッハ合唱団主宰者)

### 第 105 回定期演奏会 < 曲目解説 > /2

#### カンタータ第 68 番 《み神はこの世を かく愛したま えり》 »Also hat Gott die Welt geliebt« BWV 68

初演：1725 年 5 月 21 日(聖霊降臨節 第 2 日), ライプ  
ツィヒ。

バッハは、1725 年 4 月 22 日から 5 月 27 日までの約 1  
カ月の間に集中して、ライプツィヒの女流詩人ツィーグ  
ラー (Christiane Mariane von Ziegler, 1695-1760) による歌  
詞台本を用いて、9 曲のカンタータを作曲初演した。次  
のページの表にみるとおり、それは復活節後第 3~6 日曜  
日、昇天節、聖霊降臨節第 1~3 日、三位一体節をふくん  
で、4 月、5 月のすばらしい春から初夏。ツィーグラーの  
特徴である、福音書(ここではヨハネ福音書)の聖句そ  
のものによる歌詞に始まり、レチタティーヴォとアリア  
をくり返して、最終コラールにいたるという型によって、  
聖書から直接呼びかけられるような、温かく心に染み入  
る作品群が生まれた。祝典的な日のトランペット、ティ  
ンパニの使用もあるが、9 曲全体としてはオーボエ族の  
多用が目立ち、この時期のバッハの信仰心のみずみずし  
さを表わしている。

BWV 68 は、これらの中でも、その“信仰心のみずみ  
ずしさ”において際立っており、代表的な傑作である(独  
唱はソプラノ、バスのみ)。ひとつには第 2 曲ソプラノ・  
アリアと、第 4 曲バス・アリアを、以前に作曲した誕生  
日祝賀のカンタータ(BWV 208\*)から改作しているので、  
それも若々しく湧らつとした印象を強めている。

(\*1712 年、ザクセン=ヴァイセンフェルス公クリスティアンの誕生日  
祝賀のために作曲した《樂しき狩りこそわが喜び 狩りのカンター  
タ》。後 1714 年に、ザクセン=ヴァイマル公エルンスト・アウグストの  
誕生日にも再演された。バッハの作曲した最初の世俗カンタータ)

また、冒頭を聖句合唱曲で始め、最終コラールで締め  
くくるといふ、ツィーグラーの慣例を破って、冒頭合唱  
曲には「神はその独り子をお与えになったほどに、世を  
愛された」といふ、キリスト者にとっては深い感動をひ  
きおこす有名な聖句(ヨハネ 3:16)を、直接聖書から  
ではなく、リスコフのコラール み神はこの世を かく愛  
したまえり Salomo Liskov „Also hat Gott die Welt  
geliebt“(1675)の第 1 節によって、コラール合唱曲の形  
で表現し、最終コラールの代わりに、ヨハネ 3:18 の  
聖句をそのまま歌詞にしてフーガを作っている。その結  
果たいへん引き締まった、鮮やかに心を打つカンター  
タとなった。

#### 1. 合唱

バッハのカンタータの中でも、この世を 天国

と対比させて、否定的なニュアンスで歌うものが多いが、このヨハネ福音書では、「神は...世を愛された」、さらに「御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、御子によって世が救われるためである」と、この世に積極的な意味が賦される。そして第2曲ソプラノ・アリアの「わが心よ喜び歌え...イエスはいます」の浮き立つような喜び、第4曲バス・アリアの活気にあふれた力強い肯定へとつづいてゆく。

合唱は8分の12拍子のシチリアーノ舞曲のリズムで、ソプラノとホルンによるコラール旋律に、下3声が柔軟に和し、オーボエ族と弦合奏とが、決然たる音型でメリハリを決めてゆく。

## 2. アリア (ソプラノ)

がらりと明るい調子に変わって、ヴィオロンチェロ・ピッコロ(この演奏では通常のチェロ)がうららかで屈託のない歌を奏で始める。ソプラノは高くはずんだ2分の2拍子の歌を、調子よく楽しげに歌い、チェロの旋律とからみ合いつつ、イエスの現在に心躍らせる。

ソプラノが歌い終わると、間を置かずすぐに器楽リトルネロが展開する。第53小節からは、冒頭でチェロに歌いだされたあの旋律が、ヴァイオリンとオーボエの二重奏に引き移され、それをふたたびチェロが受け、さらに通奏低音が軽い足取りのリズムを刻む。

## 3. レチタティーヴォ (バス)

神と人との仲立ちとしてこの世に来られたイエスを、喜び信ずる、というセッコ・レチタティーヴォ。

## 4. アリア (バス)

第2曲ソプラノ・アリアとともに、BWV 208のいわゆる《狩りのカンタータ》からとられたこのアリアは、オーボエ2本とターユ(オーボエ族のテノール楽器。イン

グリッシュホルンに相当)とともに、4分の4拍子ではあるが絶え間ない3連符のせいで、8分の12拍子の効果をもつ、はげしく動いてやまない歌である。大地は砕け散り 悪魔襲い来たらん(第30小節以降)でさらにゆれ動き、第62小節からまた始めの、輝かしい わがため来たりし主の落ち着きをとり戻して終わる。

## 5. 合唱

この聖句合唱は、内容的に3段階に分かれる複雑な構成をもったフーガである。

A: 御子を信じる者は裁かれない。

B: 信じない者は既に裁かれている。

C: 神の独り子の名を信じていないからである。

冒頭からいきなりバス声部がAのフーガ主題を歌いだし[この演奏では、ツィンク(コルネット)とトロンボーン3を省略し、オーボエ2、ターユと弦合奏で合唱声部を助ける]、バス、テノール、アルト、ソプラノと、整然と声部を増してゆく。第17小節からは逆の順序で、Bの主題が上から下へと引きつがれ、AとBとがせめぎ合うように展開したあと、最後の8小節(第49小節以降)になって、Cの短く、しかも鋭い解釈が明かされる: み神の独り子の名を信ぜざりし故なり と。

この教義は、カルヴァンの予定説を思い出させ、また死後の地獄・極楽行きへの運命を思わせるが、私は、イエスの福音に照らして、人間の日常的また永遠的なあり方を指し示すものだと受けとる。地上の人類のなかで、どの部分が救われ、また捨てられるのか、というような、ソロバン勘定の話ではなく、信仰で問われるのは、つねに一個の人間の实存のみである。神とともに存在することで人間は生き、またそのために、神のほうから差し伸べられた愛の証しである、独り子の仲立ちに無頓着なら

ツィーグラの歌詞による 1725 年の 9 曲の カンタータ (初演順)

BWV	初演	教会暦	楽曲・・・引用聖句	編成(管楽器)
103	4月22日	復活節後 第3日曜日	第1曲(Coro)・・・ヨハネ16:20	トランペット、ピッコロフルート、オーボエ・ダモーレ2
108	4月29日	復活節後 第4日曜日	第1曲(Aria B)・・・ヨハネ16:7 第4曲(Coro)・・・ヨハネ16:13	オーボエ・ダモーレ2
87	5月6日	復活節後 第5日曜日	第1曲(Aria B)・・・ヨハネ16:24a 第5曲(Aria B)・・・ヨハネ16:33b	オーボエ・ダモーレ2、オーボエ・ダ・カッチャ2
128	5月10日	昇天節	(聖句引用の構成は中断) [マルコ16:14-20]	トランペット、ホルン2、オーボエ2、オーボエ・ダモーレ、オーボエ・ダ・カッチャ オーボエ・ダモーレ2、オーボエ・ダ・カッチャ2
183	5月13日	復活節後 第6日曜日	第1曲(Recit. B)・・・ヨハネ16:2	
74	5月20日	聖霊降臨節 第1日	第1曲(Coro)・・・ヨハネ14:23 第4曲(Aria B)・・・ヨハネ14:28 第6曲(Recit. B)・・・ロマ8:1	トランペット3、ティンパニ、オーボエ2、オーボエ・ダ・カッチャ
68	5月21日	聖霊降臨節 第2日	第1曲(Choral)・・・[ヨハネ3:16]* 第5曲(Coro)・・・ヨハネ3:18	ツィンク、トロンボーン3、オーボエ2、オーボエ・ダ・カッチャ
175	5月22日	聖霊降臨節 第3日	第1曲(Recit. T)・・・ヨハネ10:3 第5曲(Recit. A/B)・・・ヨハネ10:6	トランペット2、リコーダー3
176	5月27日	三位一体節	第2曲(Recit. A)・・・ヨハネ3:2	オーボエ2、オーボエ・ダ・カッチャ

【カンタータ表題】 BWV 103《なれら 泣き叫ばん》Ihr werdet weinen und heulen, BWV 108《わが去るは なれらのため》Es ist euch gut, daß ich hingehe, BWV 87《今までは なれら求めざりき》Bisher habt ihr nichts gebeten in meinem Namen, BWV 128《主の昇天にこそ》Auf Christi Himmelfahrt allein, BWV 183《人々 なれらを 追い出だすべし》Sie werden euch in den Bann tun, BWV 74《われをば愛する者 われに従え》Wer mich liebet, der wird mein Wort halten, BWV 68《み神はこの世を かく愛したまえり》Also hat Gott die Welt geliebt, BWV 175《羊の名を呼びて 主は》Er rufet seinen Schafen mit Namen, BWV 176《抗(あらが)い また怯(ひる)むは心のつね》Es ist ein trotzig und verzagt Ding. \* ) 聖句そのものではない。本文 (p.1) 参照。

ば、生きていても死んだも同然である。それはひとえに、心のあり方にかかっている、と、そのような神の奥義を伝えるために、この最後の8小節に凝縮されたことばが、ひそやかに（バッハ自身が“piano”と指定！）ただ1回だけ打ち明けられて、ただちにこのカンタータは終わるのである。

（CD「日本語演奏によるバッハ・カンタータ50曲選」[第9巻]解説に加筆）

## カンタータ第147番《心と日々のわざもて》 »Herz und Mund und Tat und Leben« BWV 147

初演：1723年7月2日（マリアのエリザベト訪問の祝日）、ライブツィヒ。

バッハの全カンタータの中でも、もっともポピュラーで、どのジャンルの音楽界でも愛されているコラール「イエスわが魂の喜び」Martin Jahn „Jesu, meiner Seelen Wonne“ (1661)、旋律 Johann Schop „Werde munter, mein Gemüte“ (1642) が、すばらしいオーケストレーションとともに、2回も現われるのが、このカンタータである。全体は2部に分かれた10曲からなり、演奏時間35分を要する大掛かりな作品である。

イエスを身ごもっているマリアが、親戚のエリザベトを訪ね、これもすでにエリザベトの胎内にあったヨハネが喜んで躍動した。マリアは、神をあがめて讃歌をとこなえた、というルカ1:39-56の聖書の個所で、神の恵みに対する人間の応答が、全曲を通じて積極的に歌われる。

10曲の配置は、次のとおりである。

### 第1部

1. 合唱
2. レチタティーヴォ（T）
3. アリア（A）
4. レチタティーヴォ（B）
5. アリア（S）
6. コラール（Jahn 第6節）

### 第2部

7. アリア（T）
8. レチタティーヴォ（A）
9. アリア（B）
10. コラール（Jahn 第16節）

### 第1部

第1曲（合唱）と第2曲（レチタティーヴォ）が第1部の始めにおかれ、あとは第3~6曲と第7~10曲とが、曲種の同じ順に配置される（アリア-レチタティーヴォ-アリア-コラール）。そして第1部、第2部とも同じ音楽（上記コラール）で結ばれている（ただし歌詞は、始めが第6節、後が第16節）。

#### 1. 合唱

コラールとは関係のない独自の作曲で、八長調4分の

### 第105回定期演奏会

[日時] 2011年1月9日(日) 14:00 開演

[会場] 石橋メモリアルホール

カンタータ第111番《み心は つねに成し遂げらる》  
カンタータ第68番《み神はこの世を かく愛したまえり》  
カンタータ第147番《心と 日々のわざもて》  
モテット BWV230《頌めよ主を 世の民こぞりて》

<チケット発売中>

[入場券] 前売3000円(全自由席) [当日売り3500円]  
事務局までお申し込みください(Tel/Fax/Mail)。郵便振替用紙と同封でお送りします。

<後援会員・団友の皆様>

「招待状」を、先月号の月報と同封でお送りいたしました。未着の場合はご連絡ください。お送りいたします。

お仲間、ご友人等お誘い合わせの上、ご来聴いただけますよう、今からご予約ください。

6拍子。トランペットのファンファーレに導かれて、オーボエ2、弦合奏、通奏低音が生き生きとした前奏で合唱を誘い入れる。あとのコラールがあまりにも有名なので、この冒頭合唱に注目を怠りがちな人々もあるようだが、この曲もまた非常に特徴的なもので、私などは、例のマックス・ヴェーバーの説いた「プロテスタンティズムとその職業（召命）意識との関連に思いいたるとき、この音楽を想起するほどである。疑いをはさむ余地のない勤勉さ、心・ことば・行為・生活のすべてが、この世にあって神の証しとなるべきだという姿勢（S. フランクの詩にもとづく）が、第1曲を始めとして、3, 5, 7, 9曲の各アリアでくり返される。

#### 2. レチタティーヴォ（テノール）

アリア4曲と交互にある3曲のレチタティーヴォは、この日の筋を追って、マリア、エリザベト、ヨハネのことを物語る。第2曲ではマリアが主人公。

#### 3. アリア（アルト）

第1部の第3曲と第5曲に現われるアリアは、2曲とも女声（アルト、ソプラノ）で、短調（イ短調、ニ短調）の、心の内面で訴えるような歌である。この第3曲は、オーボエ・ダモーレ、アルトと通奏低音のトリオ楽章で、まどわず主を証しせよと歌う。

#### 4. レチタティーヴォ（バス）

「マリアの讃歌」のなかの「心の思いの驕り高ぶる者を追い散らし、権力ある者を王座から引きおろし、卑しい者を引き上げ」（ルカ1:51-52）から発想をうけ、備えせよ いまこそ救いするとき と促す。通奏低音のみが伴うが、要所所で写実的な動きをとる。

#### 5. アリア（ソプラノ）

ヴァイオリン独奏の3連符が間断なくソプラノを先へ先へと導いて、備えたまえ 主の道を 向けたまえ 恵みのなが眼差しを と、イエスに対する懇願のかたちで



ソプラノは可憐な歌をうたう。つづく第 6 曲が、同じく 3 連符の器楽にのせてコラールを奏でるが、その先駆的な音楽となっている。

#### 6. コラール

オーボエ 2、弦合奏と通奏低音の、4 分の 3 拍子（3 連符は 8 分の 9 拍子。オーボエと第 1 ヴァイオリン声部）の流麗な前奏から、イエス讃歌の 4 声体コラール（トランペットが主旋律を補強）が湧きあがる。ヨーハン・ショープのこの旋律は、原型に近いかたちで『讚美歌 21』にも収載されており（第 215 番「心はずませ み前に進もう」）、また《マイ受難曲》にも用いられているが（第 40 曲 主を離れしわれ ふたたび帰りゆく）、このカンタータの 3 拍子と 3 連符多用の編曲があまりにも個性的なので、同じコラール旋律とは気づかれないほどである。第 2 部

#### 7. アリア（テノール）

主イエスよ というテノールの呼びかけと同じ、通奏低音のユニゾンから始まり、主を証する われ にみ力を与えたまえと訴える。チェロがまた第 5、6 曲にひきつづき 3 連符を重ねて、たえせず心を燃やさん という結尾に向かってヴォルテージを高めてゆく。

#### 8. レチタティーヴォ（アルト）

オーボエ・ダ・カッチャ 2 本をともなった、27 小節もある長いレチタティーヴォで、ここでは胎内のヨハネが主人公である。母エリザベトが神の奇蹟のわざを言い表し、マリアが唇の献げものとして「讃歌」を唱えたとき、まだこの世に生まれ出る前のヨハネまでが、胎内で喜び躍る。3 度・6 度音程でびたりと寄りそって動く 2 本のオーボエ・ダ・カッチャが、将来の洗礼者ヨハネとイエスの協働関係を暗示する。

#### 9. アリア（バス）

第 2 部の第 7、9 曲の 2 曲のアリアは、いずれも男声（テノール、バス）・長調（2 曲ともハ長調）で、第 1 部の女声・短調と対照的につくられている。

トランペットの力強い歌い出しを、バスがくり返し、オーボエ 2、弦合奏、通奏低音とで、曲全体の結論を、休まない勤勉さをもって展開させる。冒頭合唱（第 1 曲）の雰囲気のみ再現だが、もはやなすべきことは、個々の行為ではなく、神への信頼と讃美のみである。主の約せし愛は 弱き身と口をきよき火もて強めん。

#### 10. コラール

第 1 部の終結コラール 6. と同じイエスへの愛の讃歌だが、全体の最後では イエス 君のもと われは離れじと、熱烈な告白、そして器楽後奏の余韻をもって、長大なこのカンタータは終わりをとげる。生活のなかに沸々とよみがえっては、私たちを明るくし、励ましてくれる名曲である。

（CD「日本語演奏によるバッハ・カンタータ 50 曲選」[第 17 巻] 解説に加筆）

...

[各曲の訳詞全文は <http://www.ab.auone-net.jp/~bach/index.htm> を参照]

## ストラスブールの印象

松前 紀男

このたびクラス会の機会に、『東京バッハ合唱団 30 年の歴史』（1992 年刊）を戴き、さっそくページをめくって、拾い読みいたしました。

記録として精緻な情報の集積に感心いたしました。私の目にまず留まったのは、ストラスブール留学のところで、あの街でどのようなことをされていたか、興味をそそられました。

私は住んだ経験はありませんが、何度も訪れ、街の雰囲気と歴史に、独自の愛着をもっております。泊まったのはいつも同じホテルですが、通うのは、大学の社会科学部と、西のはずれの A. モール教授の家の書斎、助手の汚い研究室、それに、学位の恐ろしい公開審査を 3 時間にわたって受けた（1990 年）法学部の小ホール、そして大学近くで営業している日本人のおばさんの焼き飯を食べに、など。

家内と、トラムができてから行ってみようと、コルマールに 1 週間宿をとり、その足でストラスブールに寄って、20 日間ほど滞在することにしておりましたが、急に体調を崩し、行くことはできませんでした。

1998 年、札幌コンサートホールの館長を兼務したとき、ここには、ストラスブールのはずれにあるケルン氏の工房でつくったパイプオルガンが設置されており、またこの街との繋がりができました。

ケルン氏の親父さんは、シュヴァイツァーと親しく、この工房も、その関係で優れた技術をもっております。かなり前にも、ストラスブールの街から呼ばれて、観光面からアドヴァイスしろと言われたことがありました。そのときは、ヴォージュ山脈の中を車でうろつきました。そんなことで、興味をもっている街です。

また来年、お目にかかるのを楽しみにしています。それまでお元気で。

（主宰者の芸大楽理科学友。東海大学学長などを勤めた）

《口短調ミサ曲》（日本語演奏） [創立 50 周年記念企画 1]

2011 年 12 月 3 日（土） 杉並公会堂大ホール

### 合唱参加へのお願い

第 105 回定期演奏会の終了翌日から、《口短調ミサ曲》の本格練習が始まります。合唱への参加ご希望の方、なるべく年内にご登録ください。

練習会場と曜日 目白聖公会（JR 山手線「目白駅」下車）＝月曜日 18：30 - 20：30。世田谷中央教会（東急田園都市線「桜新町駅」下車）＝土曜日 15：30 - 17：30。

参加登録 練習参加および本番出場は、当合唱団への入団が前提です。参加ご希望の方は、事務局までご一報ください。参加要綱と登録用紙をお送りします。

使用楽譜と訳詞の書き込み ベーレンライター版ヴォーカルスコア（Bärenreiter 5102a）、「訳詞コピー譜」（使用譜の全ページコピー、B4 判約 120 枚、実費 1000 円）あり。